

# 歌い継がれる “名曲”

桜塚高校軽音楽部ユニットバンド  
「さくらヒルズ」が届ける「おかまち桜いろ」

秋も深まる11月、服部緑地野外音楽堂に高校生たちの元気いっぱいのサウンドが響きます。平成24年(2012年)から始まった豊中市高校生軽音楽フェスティバルには、毎年、各高校から選りすぐりのバンドが出演。日頃の演奏活動で培った自慢のステージで観客を盛り上げます。

そんななか、桜塚高校軽音楽部のユニットバンド「さくらヒルズ」が歌うオリジナル曲「おかまち桜いろ」が、異色の輝きを放っています。

軽音楽フェスティバルでは、毎年、多くのバンドが、若者に人気のアーティストやメジャーバンドの楽曲を選曲するなか、桜塚高校軽音楽部では第1回からずっと、先輩から後輩へと受け継がれてきた「さくらヒルズ」が参加し「おかまち桜いろ」を歌い継いでいます。

「さくらヒルズ」は、この曲を歌うために結成される同校伝統のユニットで、毎年、部内のオーディションを経てメンバーが選抜される、いわば同校軽音楽部の「顔」。そして「おかまち桜いろ」は、いつも応援してくれている地元への感謝の気持ちを込めて、岡町・桜塚商店街のために同部が制作したオリジナル曲です。

「制作にあたっては、部員みんなで商店街や岡町への思いを語り合い、初代さくらヒルズのメンバーがその気持ちを歌詞につむぎ、メロディをイメージしていきました」と、顧問の久谷秀明先生は平成23年の制作当時は振り返ります。

歌詞の中には、♪だけど遅刻しそうなとき このいつもの道のりが一体どれくらい長く感じられたことだろう♪と、部員たちの登校風景が目に見え、微笑ましいフレーズも盛り込まれ、やさしく澄んだ歌声と柔らかなメロディが聴く者の心をとらえます。

現在、5代目のメインボーカルを務める部長の竹中詩織さんは、軽音楽フェスティバルで出会ったいろんな人が「あの曲、去年も歌っていたよね」と声をかけてくれたと言います。「この曲は、先輩たちの思いが詰まった大切な曲のひとつ。後輩にも、自分たちの“桜いろ”を見つけて、堂々と歌ってほしい」と語ります。

今年11月には5周年を迎える軽音楽フェスティバル。澄みわたる秋の青空に、きっとまた、新たな「おかまち桜いろ」が生まれます。

5代目さくらヒルズのメンバー



おかまち桜いろ  
CDジャケット



YouTubelは  
こちら



顧問の久谷先生



部長の竹中さん



昨年の軽音楽フェスティバルで熱唱する5代目さくらヒルズ